



IFALPA DG Committee in Paris 開催報告

はじめに

2021年9月14～16日の計3日間、フランスのパリでIFALPA DG Committeeが開催されました。コロナ禍の影響でIFALPA会議は2020年3月以降、オンライン形式で開催されていましたが、2021年夏から徐々に対面式の会議を開催する方針へ変更され、今Committeeはそのスタートに当たる会議となりました。欧州域内などでは比較的自由に往来が可能ですが、日本では検疫体制が強化されたまま（帰国後の隔離期間が長いこと）であることから、残念ながらALPA Japanからの出席は断念しました。

オンライン形式に比べ、有意義で深い議論が行われたことから、今回はCommittee Meetingの議論内容を公式議事録から抽出する形で皆様にご紹介します。

ICAO危険物関連委員会での議論状況

ICAOのDangerous Goods Panel（危険物関連委員会）は、昨年につき、オンライン形式で開催されました。対面形式の委員会に比べて議題数が3分の1程度に留まっている状況となっており、議題の多くが新型コロナウイルス感染症関連となっています。しかし、対面形式時に比べ、IFALPA関係者が多数出席することが叶いました。

以下、議論内容を簡単に列挙します。

- ① 手指消毒剤（消毒製品）
コロナ禍で、機内で乗客乗員が使用するアルコール含む消毒剤が多く機内に搭載されている。
- ② リチウムバッテリー包装基準
継続議題となっているリチウムバッテリー輸送の包装基準は、今後も議論が継続されることになった。
- ③ EASAによるリチウムバッテリーのリサーチ
EASAでは、リチウムバッテリーの発熱・発火のプロセスに関して引き続きリサーチを続けている。
- ④ ICAOにおける新Working Group (WG) の設立
ICAOで新たに、Safe Carriage of Goods Specific Working Group (SCGSWG) が設立された。これは、航空機の運航において担当がはっきりしないTopicsを扱うWGとして位置付けられており、2021年初旬に第1回が開催された。このWGでの議論に該当すると思われるHot Topicsとして、「貨物機と旅客機の定義について」が挙げられることから、DG Committeeとして声を挙げていく必要がある。
- ⑤ 旅客貨物機における危険物輸送
旅客機を乗客無しで、貨物機として運航する場合の危険物輸送について議論が行われた。元来、客室内に危険物を搭載することは、火災や煙検知器・消火設備などが装備されていないことから認められていないが、しっかりとRisk Assessmentを行いながら議論する必要がある。

⑥ 受託手荷物内の機器に内蔵されたバッテリー

バッテリーが内蔵された電子機器等を受託手荷物として貨物室に搭載する場合、バッテリーの充電率を 30%以下に規定する旨の議論が実施されている。現在、バッテリーの充電率を 30%以下とすることでバッテリーの航空機輸送が認められているが、これを受託手荷物にも準用しようという考え方である。ICAO では、議論の前提として「可能な限り充電率が低ければ、より安全に輸送出来る」としている。

⑦ バッテリーに関するその他の議論状況

「欠陥品のバッテリーや傷が入ったバッテリーなどを客室に持ち込ませない」、「受託手荷物として預かるリチウムバッテリーが内蔵された機器は、必ず電源を OFF しなければならない」といった議論が行われている。

2020～2021 年の会議において議論された内容のうち、決定した事項に関しては 2023 年 1 月に改訂される ICAO DOC 9284 「Technical Instruction for the safe transport of Dangerous Goods by Air」 (TI's) に反映される予定です。

その他のトピックス

< ワクチン輸送 >

新型コロナウイルスに対するワクチン輸送について、新しいワクチンが国連において承認される前の段階では危険物として取り扱われていますが、承認後は危険物として取り扱わない方式がとられています。



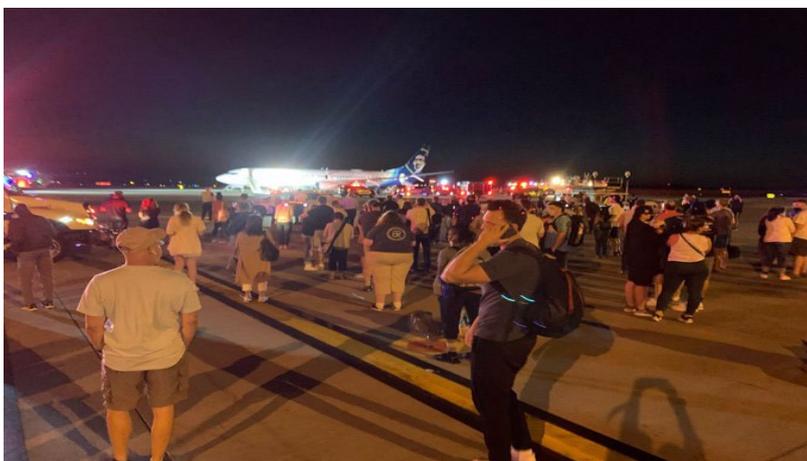
< NOTOC (SL Form) の電子化 >

IATA 主導で進められている NOTOC の電子化は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、議論が進んでいません。

最後に

新型コロナウイルス感染症の拡大は、国際会議の開催は対面形式が難しい状況を生じさせていますが、一方で、世界全体における旺盛な航空貨物需要という、環境変化を生んでおり、危険物輸送の安全輸送の重要性はますます高まっていると言えます。欧米を中心に対面形式による会議開催が進められる中、ALPA Japan DG 委員会は日本の検疫体制を睨みながら積極的に出席を考えていきます。

事例紹介 (2021年8月23日、アラスカ航空B737-900型機、ニューオリンズーシアトル、乗客128名)



シアトル空港 RWY34L へ着陸後、地上滑走中に搭乗旅客のスマートフォンより発火。客室乗務員が消火にあたるも、煙の充満によって緊急脱出を余儀なくされました。

怪我人はありませんでしたが、乗客 2 名が病院へ搬送されました。

以上